

平成27年(ワ)第1837号 損害賠償請求事件

原告 渡部昇一他

被告 株式会社朝日新聞社

陳述書

平成27年10月14日

杉田水脈

私は前衆議院議員の杉田水脈です。

平成24年(2012年)7月、渡米し、親日派と言われる面々と面談した際、必ず「慰安婦問題」を持ち出されることに大きな違和感を持ち、帰国しました。

誰もが「慰安婦問題をちゃんと謝罪していない日本が悪い。」との見解でした。その後、調査を行い、世界中に「嘘」が広まっていると確信しました。

一昨年12月、慰安婦像を建立した米国カリフォルニア州グレンデール市に、日本の国会議員として初めて訪問し、現地で何が起きているのかを調査してきました。

現地では、在米日本人が人権を侵害される出来事が頻発しており、面会した総領事も「対岸の火事ではない。」と語りました。

それをもとに衆議院予算委員会、内閣委員会などでこの問題について数々の質疑を行いました。

このような問題を国会の場で取り上げざるを得ないことは誠に遺憾です。

また、この問題は地方議会においても大きな影響を及ぼしています。

私が住んでいる宝塚市では、平成20年(2008年)3月、日本の地方会議で初めて慰安婦への謝罪や賠償を求める意見書を採択し、国に提出しました。

多くの地方議会がこれに続きました。

しかし、朝日新聞の訂正記事を受け、昨年10月「2008年の意見書は根拠を失ったことを確認する決議」が賛成多数で可決され、朝日新聞の捏造記事に基づいた意見書は事実上取り消されました。この動きは全国に広がっています。

本来国会や地方議会は、国民生活に密着した議論がなされる場である。この問題のせいでその多くの時間を無駄にしています。

世界中にばらまかれている嘘。諸悪の根源は朝日新聞の捏造報道です。

朝日新聞が訂正記事を出した後も、まだまだ国外では、日本の慰安婦問題はナチスドイツのホロコーストに匹敵すると宣伝されています。

その結果、アメリカ各地に慰安婦像や碑が建てられ、オーストラリアなどでは新たな像の建立が計画されています。先月もサンフランシスコ市が慰安婦像建立を決めました。

私は、議員を退いた後も国連の女子差別撤廃委員会や人権基本理事会で、国際社会に向け、日本に着せられた謂なき汚名を濯ぐ発言を行っています。

日本が朝日新聞の報道によって失った32年間は、非常に重くかつ大きいものがあります。しかし、当の朝日新聞は、訂正記事は掲載したものの、まだ、きちんとした謝罪を行っていません。更には、英語版朝日新聞に謝罪記事を掲載することを拒否し続けています。

本来、世界に向け、濡れ着を晴らす努力はまず、誤報を行った朝日新聞がすべきだと考えます。

直ちに英語版で世界に向けた謝罪記事を掲載し、その後のフォローも誤解が解けるまで続けるべきです。

以上